

地域連携センター Newsletter

特集：コロナ禍における地域貢献活動の工夫

【コロナ禍における本学の地域貢献活動の工夫 — オンライン型の公開講座を開催して —】

教育普及事業責任者 診療放射線学部 青木 武生

令和2年度から令和3年度はコロナ禍の影響で地域貢献活動の多くが中止となりましたが、何とか公開講座だけでもWeb開催をしたいと考え、関係教職員で協議しました。今最も関心のあるテーマとして感染症対策を選び、診療放射線学部教授の瀬川篤記先生には対策の基本的概念、看護学部講師の戸谷幸佳先生には日常生活における知識について、分かりやすい動画講義を制作して頂きました。最終的には、「感染症対策これだけは！」と題して、令和3年1月27日～2月28日の間にYoutubeで公開し、合計300回以上再生されました。



令和3年度も公開講座はWeb開催とし、「これで分かる、新型コロナウイルス感染症の最新情報」と題して、共愛学園前橋国際大学短期大学部教授(元太田保健所所長)の栗原修一先生にご講演頂き、収録動画を9月15日から10月15日まで公開しました。

家庭用ビデオを用いた動画収録では、音声や画像解像度に問題があり受講者の皆さんにご不自由をおかけしましたが、現在は数台のパソコンを用いるなどの工夫により、鮮明な画像と音声での収録が可能となっています。

講義動画 (Web動画より)



共愛学園前橋国際大学短期大学部
生活学科栄養専攻 教授
栗原修一 先生

<受講された方々のご意見・ご感想>

— アンケート結果より抜粋 —

- ・ 時間のある時に余裕をもって視聴できた。
- ・ 感染のリスクが下がるので安心して参加できた。
- ・ 新型コロナウイルスの情報が過多となっている昨今において情報の整理ができた。
- ・ 様々と変化しているコロナ情勢についてスライドやグラフにより説明いただき、分かりやすかった。



【小規模町村支援事業モデル地区の榛東村で 認知症サポーター・ステップアップ研修を開催しました】



小規模町村支援事業モデル地区として本学と健康づくり推進に関する包括協定を締結している榛東村で、R3年10月22日、11月1日、12日の3日間にわたり、認知症サポーター・ステップアップ研修を開催しました。

当日は、村内各所から23名の皆さまに受講いただきました。最終日の座談会では、「コロナが収束したら村内巡回型の認知症カフェを開催したい」、「回想法や音楽レクリエーションでみんなを笑顔にしたい」などの意気込みが語られました。

受講者の皆さんの熱意と意識の高さを感じ、これからの活躍が楽しみとなる良い研修会となりました。次年度も同村と本学で協力し、新メンバーを対象とした研修会を予定しています。



受講生の皆さんと
講師担当の看護学部 狩野教授

学生の活動報告

【医療情報技師認定試験に診療放射線学部生2名が合格しました】



医療情報技師とは「医療のため、そして患者のために医療の情報化を担い推進できる医療情報技術の知識・技術を有する者」で、一般社団法人日本医療情報学会が認定する資格です。

昨今、病院では電子カルテをはじめ様々な情報システムが導入されており、医療情報の業務は重要です。放射線科も例外ではなく、莫大なデータやシステムの管理を自身で行えるということは、病院にとっても大きな強みです。

本年度の全国合格率34.5%（829名合格／2,402名受験）という難関を潜り抜けて資格を手にしたのは、診療放射線学部3年西尾卓也さんと梅室愛華さんです。将来、この資格を活かして地域社会にも貢献できる人材として活躍することを願っています。

お知らせ

◆2022年度「出前講座」、「公開授業」のご案内

※コロナの感染状況により、開催方法等の変更の可能性があります。
詳細は、本学ホームページをご覧ください。URL：<http://www.gchs.ac.jp/>

◆2022年度「看護研究セミナー」、「看護研究個別支援成果報告会」のご案内

【開催方法】ハイブリッド開催（オンデマンド・一部対面）

【開催時期】5月10日～6月6日（予定）

【受講料】無料

【対象】群馬県内の保健医療関係職の方

※詳細は、本学ホームページをご覧ください。

■セミナー内容（90分前後）

セミナー1：「看護研究計画書の作成」

セミナー2：「看護研究における倫理と手続き」

セミナー3：「看護研究のための文献検索と文献検討」

■看護研究個別支援成果報告会

